

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 急性呼吸器感染症 (ARI) 定点医療機関からの搬入検体

2025 年第 15 週から急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスが開始された。ARI とは、咳嗽、咽頭熱、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う疾患の総称である。ARI 定点医療機関からは、該当症例の鼻咽頭検体等が当センターに搬入されることとなっている。

2025 年は、当センターに搬入される検体のうち、ARI 定点医療機関の医師がウイルスによる感染症であると判断した 2,257 検体についてインフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、ヒトメタニューモウイルス、RS ウイルス、ヒトパラインフルエンザウイルス、ライノ/エンテロウイルス、アデノウイルスの検査を実施した。搬入された 2,257 検体のうち何らかのウイルスが検出されたのは 1,685 検体、陽性率は 74.7%であった。検体採取週毎の検体搬入数は、平均 59.3 件であり(図 1)、検体採取週毎の陽性率の最小値は 56.7% (第 19 週)、最大値は 88.7% (第 52 週) (図 2) であった。

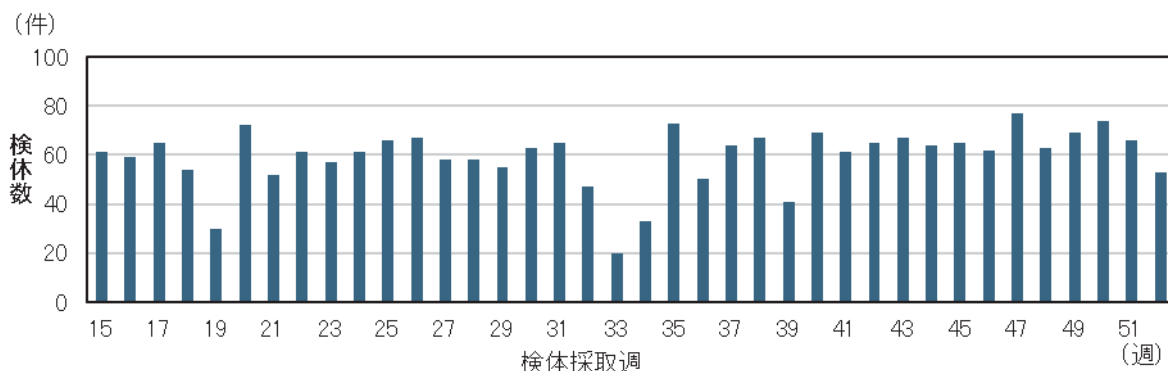


図 1. 検体採取週毎の検体搬入数

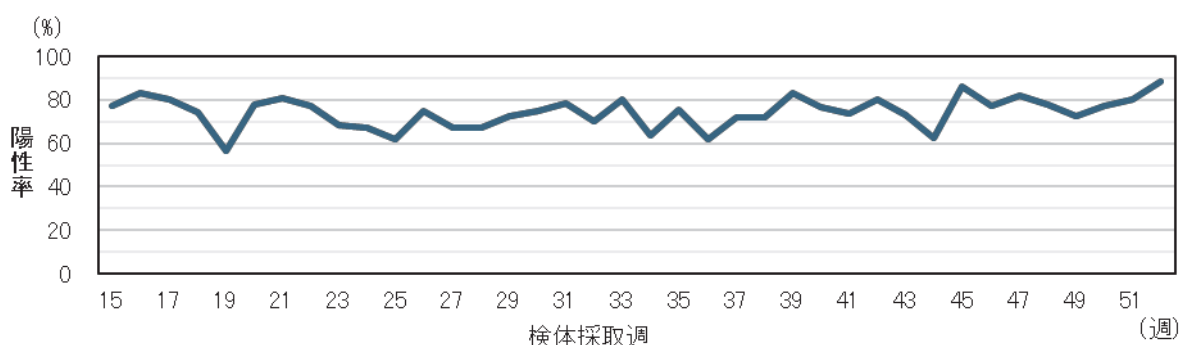


図 2. 検体採取週毎の検体陽性率

ア インフルエンザ

① 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月 (第 36 週) を境にシーズン分けがされている。2025 年第 1 週～第 35 週は 2024/2025 年シーズン、2025 年第 36 週～第 52 週は 2025/2026 年シーズンとなる。また、2025 年第 15 週から ARI サーベイランスが開始された。

2024 年第 36 週～2025 年第 14 週で採取された 442 件が、インフルエンザ/COVID-19 定点医療機関

および ARI 定点医療機関より搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 が 228 件（69.5%）、AH3 亜型が 67 件（20.4%）、B 型 33 件（Victoria 系統 33 件：10.1%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 328 件が検出された。（図 3a、図 4a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 192 株、AH3 亜型 56 株、B 型 32 株（Victoria 系統 32 株、Yamagata 系統 0 株）の計 280 株が分離された。

ARI サーベイランス期間（2025 年第 15 週～2025 年第 35 週）においては、ARI 定点医療機関から 1,177 検体が搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 22 件（1.87%）、AH3 亜型 16 件（1.36%）、B 型 25 件（Victoria 系統 25 件：2.12%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 63 件が検出された（図 3a、図 4a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 17 株、AH3 亜型 13 株、B 型 21 株（Victoria 系統 21 株、Yamagata 系統 0 株）の計 51 株が分離された。

2024/2025 年シーズンは、冬季に AH1pdm09 による大規模な流行が起こり、第 6 週から AH3 亜型、B 型 Victoria 系統の検出割合が増加した。

② 2025/2026 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

2025/2026 年シーズン（2025 年第 36 週～2026 年第 9 週までの途中経過）は、ARI 定点医療機関より 1,628 検体が搬入された。遺伝子検査では AH1pdm09 13 件（2.0%）、AH3 亜型 436 件（68.3%）、B 型 189 件（Victoria 系統 189 件：29.6%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 638 件が検出された（図 3b、図 4b）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 11 株、AH3 亜型 387 株、B 型 178 株（Victoria 系統 178 株、Yamagata 系統 0 株）の計 576 株が分離された。2025/2026 年シーズンは 2025 年に AH3 亜型、2026 年に B 型 Victoria 系統による大規模な流行が起きた。

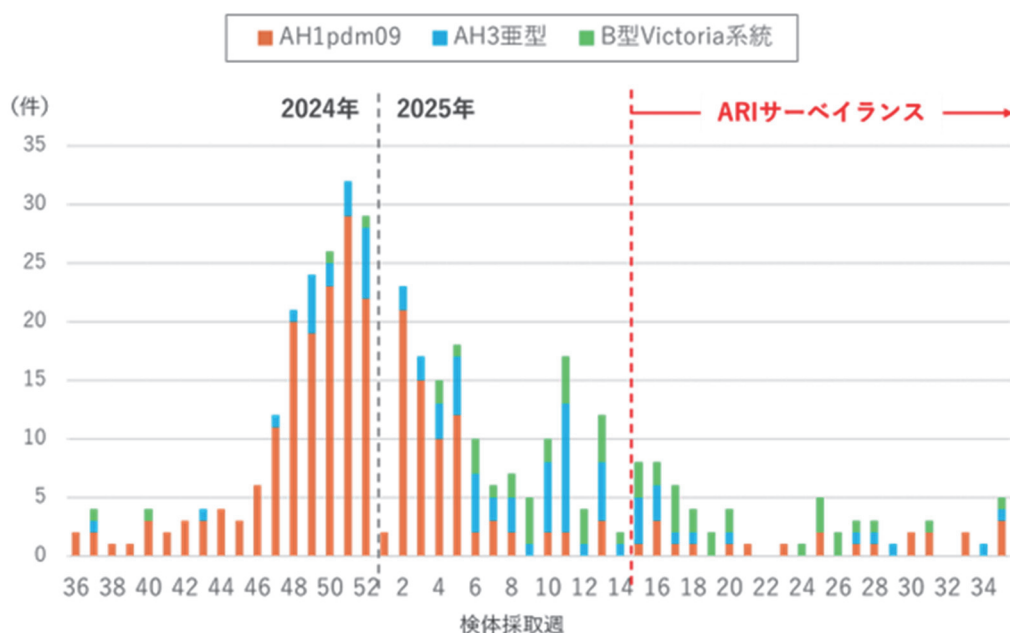


図 3a. 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数

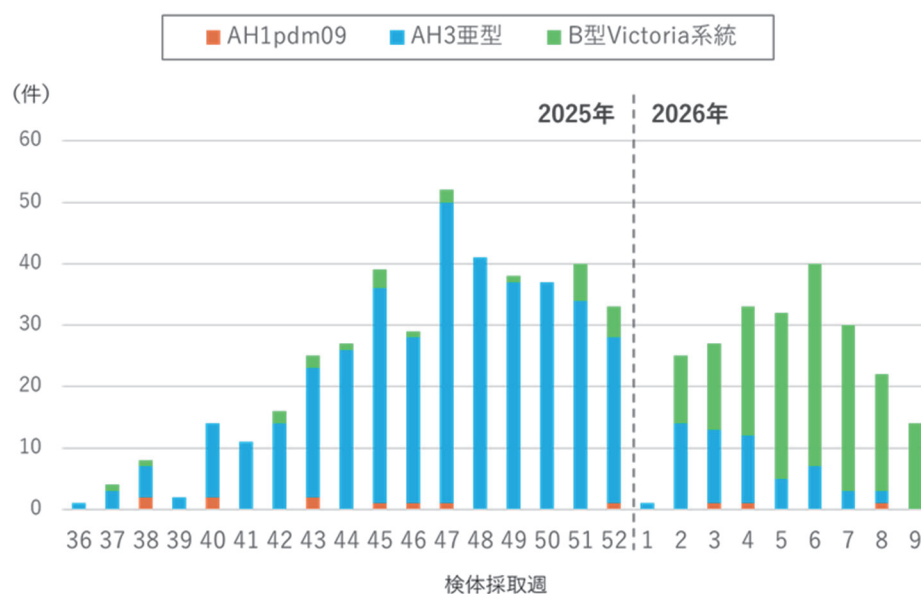


図 3b. 2025/2026 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数（2026 年 2 月末現在）

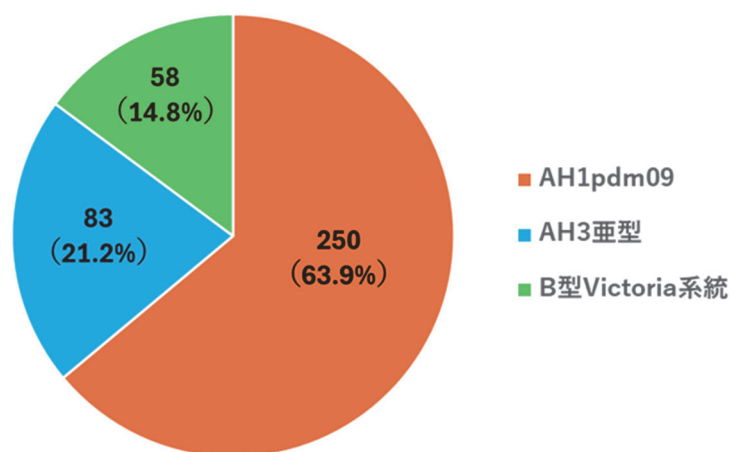


図 4a. 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況

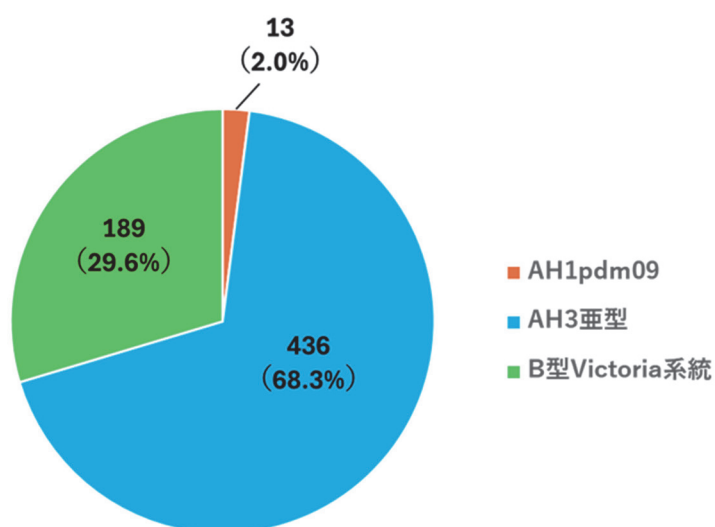


図 4b. 2025/2026 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況（2026 年 2 月末現在）

③ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、インフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested-PCR 検査によって得られた HA（ヘマグルチニン）遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所から配布されたインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験（1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用）により行った。

AH1pdm09 は、2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株（A/Victoria/4897/2022）を比較したところ、解析範囲（567 塩基）の遺伝子変異は 8～14 塩基（塩基一致率：97.5%～98.6%）であった。系統樹上では、流行株は大きく 2 つに分かれたクレードにそれぞれ属した（図 5）。HA 価が 8 倍以上あり HI 試験が実施できた 202 株は、168 株（83.2%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、34 株（16.8%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。2025/2026 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 9～14 塩基（塩基一致率：97.5%～98.1%）であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した（図 5）。HI 試験が実施できた 10 株は、9 株（90%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、1 株（10%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

AH3 亜型は、2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株（A/California/122/2022）を比較すると、解析範囲（329 塩基）の遺伝子変異は 4～12 塩基（塩基一致率：96.4%～98.9%）であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した。HI 試験が実施できた 65 株は、57 株（87.7%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、8 株（12.3%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。2025/2026 年シーズンはワクチン株が A/California/122/2022 から A/Perth/722/2024 に変更された。2025/2026 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 12～13 塩基（塩基一致率：96.0%～96.4%）であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した（図 6）。HI 試験が実施できた 209 株は、118 株（56.5%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、91 株（43.5%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

B 型 Victoria 系統では、2024/2025 年シーズンの検出株とワクチン株（B/Austria/1359417/2021）では、解析範囲（279 塩基）での遺伝子変異は 3～7 塩基（塩基一致率：97.5%～98.9%）であった。系統樹上ではワクチン株と同じクレードに属した（図 7）。HI 試験が実施できた 52 株は、51 株（98.1%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、1 株（1.9%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られ、抗原性に大きな変異はないと推察された。2025/2026 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 4～9 塩基（塩基一致率：96.8%～98.6%）であった。HI 試験が実施できた 174 株は、16 株（9.2%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、158 株（90.8%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

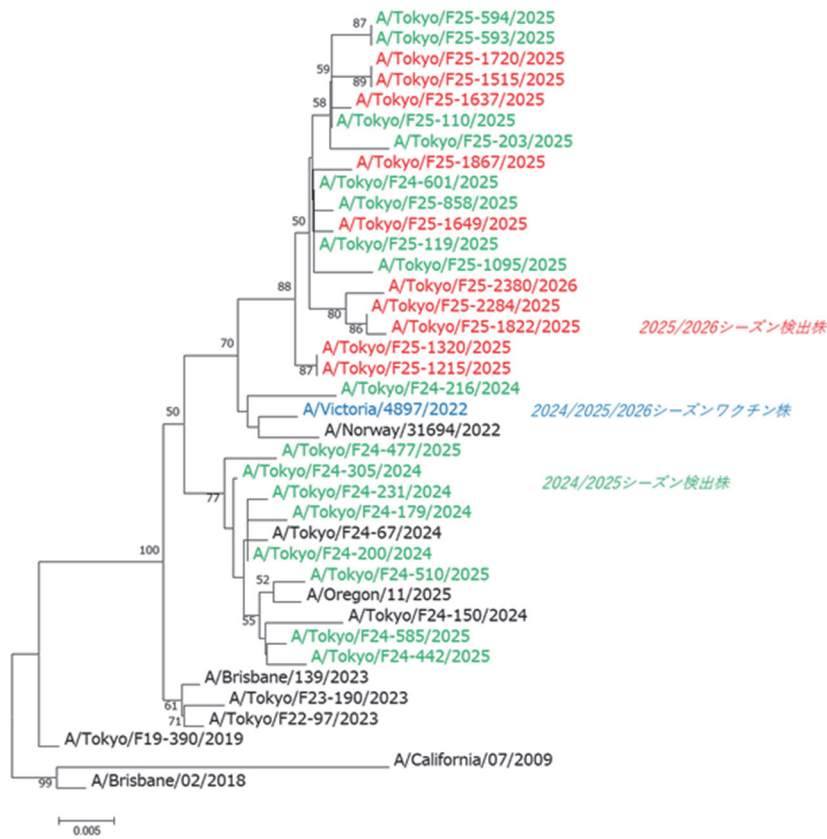


図 5. 東京都における AH1pdm09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

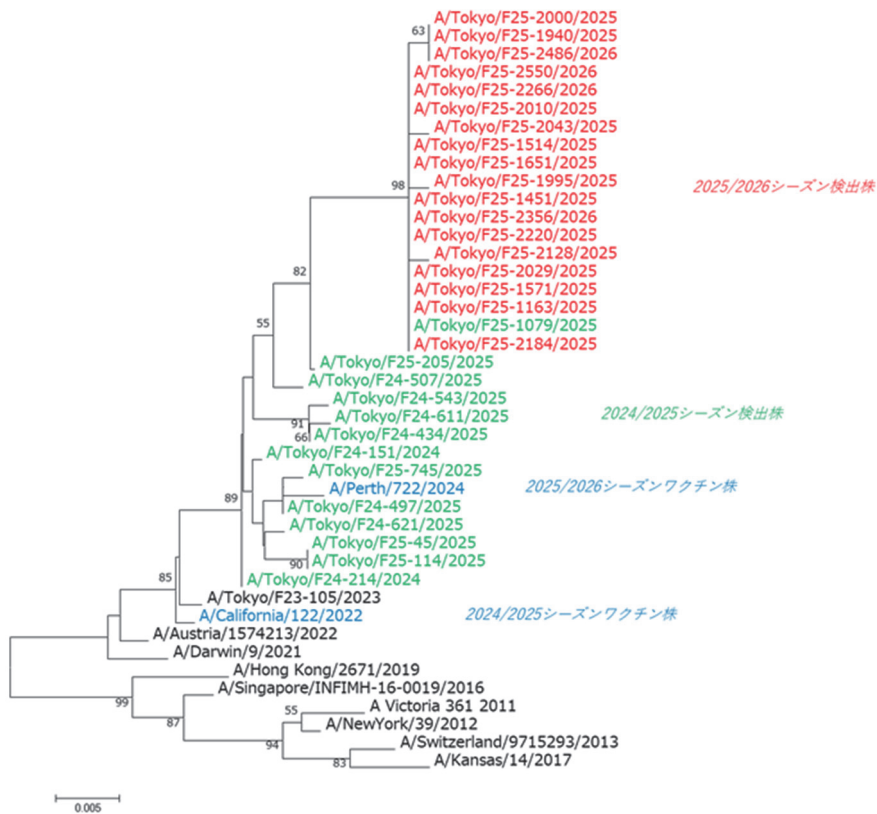


図 6. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

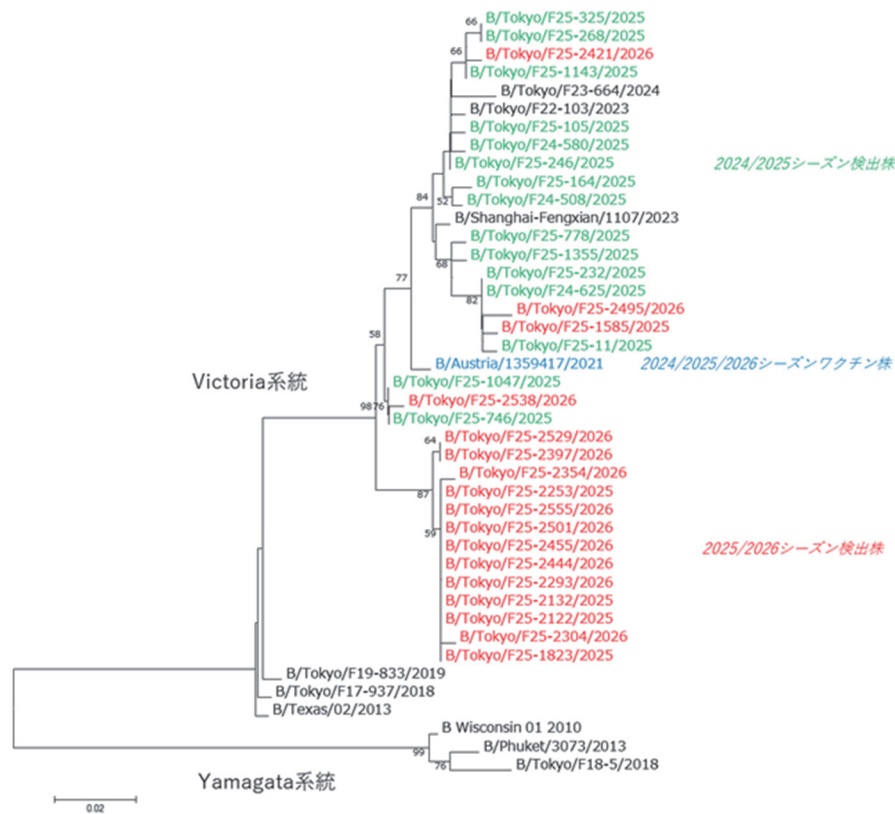


図 7. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

イ 新型コロナウイルス

ARI 定点医療機関から当センターに搬入された患者検体 2,257 件について新型コロナウイルス遺伝子検査を実施した。その結果、239 件から新型コロナウイルス遺伝子が検出された。全ゲノム解析が可能だった 190 件の遺伝子型の内訳は NB.1.8.1 が 155 件、XEC が 13 件、XEV が 1 件、XFC が 2 件、XFG が 7 件、LP.8.1 が 7 件、LF.7 が 3 件、KP.3.1.1 が 2 件だった (図 8)。

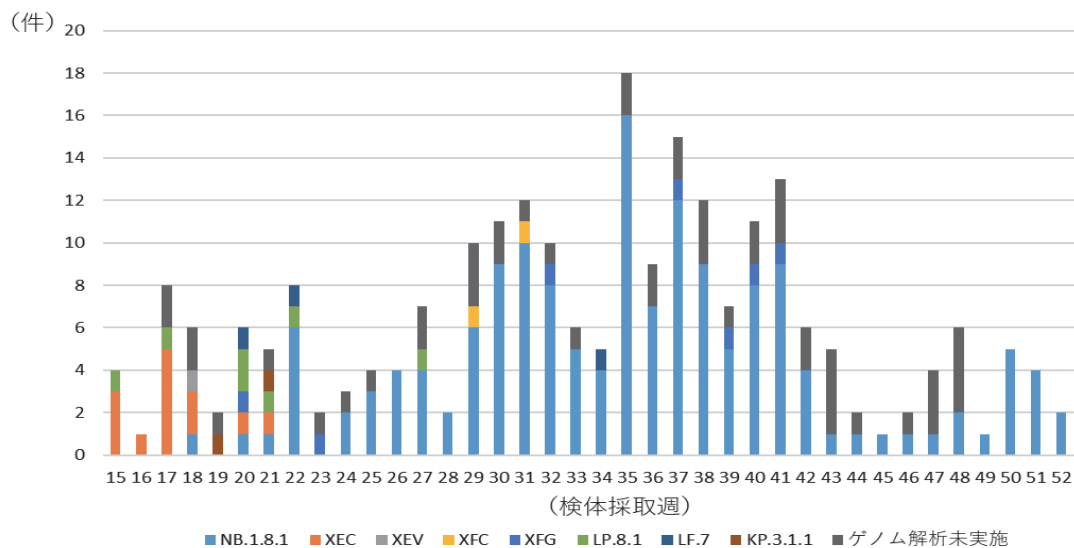


図 8. ARI ウイルス感染症患者検体からの新型コロナウイルス検出状況

ウ ヒトメタニューモウイルス

ARI 定点医療機関から当センターに搬入された患者検体 2,254 件についてヒトメタニューモウイルスの遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。2,254 件中 36 件からヒトメタニューモウイルスが検出された（図 9）。分離試験では、6 株分離された。

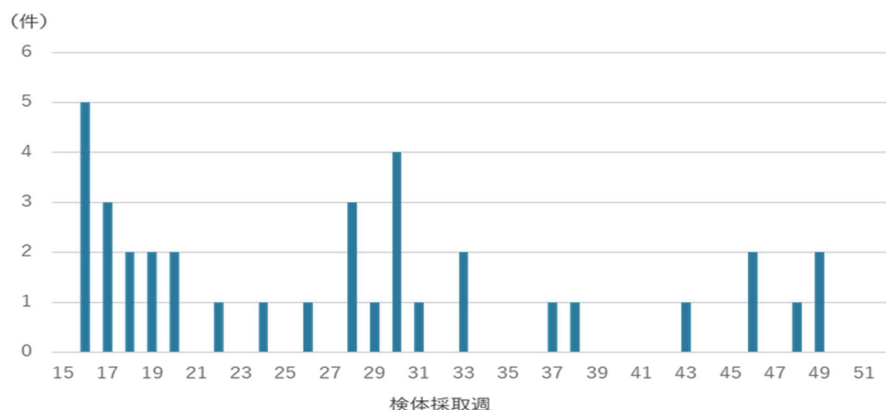


図 9. ARI ウイルス感染症患者検体からのヒトメタニューモウイルス検出状況

エ RS ウイルス

当センターに搬入された ARI ウイルス感染症患者検体 2,257 件について RS ウイルスの遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。2,257 件中 177 件から RS ウイルス遺伝子（A 型 57 件、B 型 122 件）が検出された。分離試験では、RS ウイルス A 型が 13 株、RS ウイルス B 型が 36 株分離された（表 1、図 10）。

表 1. ARI ウイルス感染症患者検体から検出された RS ウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
RSウイルスA型	57	13
RSウイルスB型	122	36
陰性	2,080	128

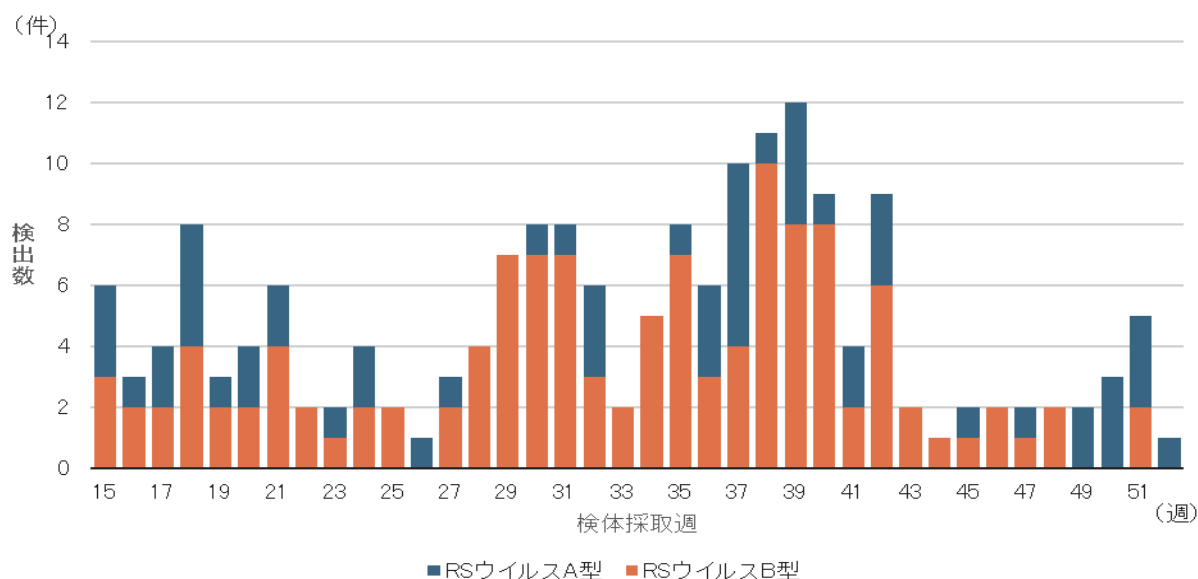


図 10. ARI ウイルス感染症患者検体からの RS ウイルス検出状況（重複検出を含む）

オ ヒトパラインフルエンザウイルス

ARI 定点医療機関から当センターに搬入された患者検体 2,257 検体についてヒトパラインフルエンザウイルスの遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。2,257 件中ヒトパラインフルエンザウイルス 1 型が 24 件、ヒトパラインフルエンザウイルス 2 型が 41 件、ヒトパラインフルエンザウイルス 3 型が 134 件、ヒトパラインフルエンザウイルス 4 型が 84 件検出された（重複感染を含む）。分離検査では、ヒトパラインフルエンザウイルス 2 型が 20 件分離された（表 2、図 11）。

表 2. ヒトパラインフルエンザウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離件数
ヒトパラインフルエンザウイルス1型	24	
ヒトパラインフルエンザウイルス2型	41	20
ヒトパラインフルエンザウイルス3型	134	
ヒトパラインフルエンザウイルス4型	84	
陰性	1,974	263

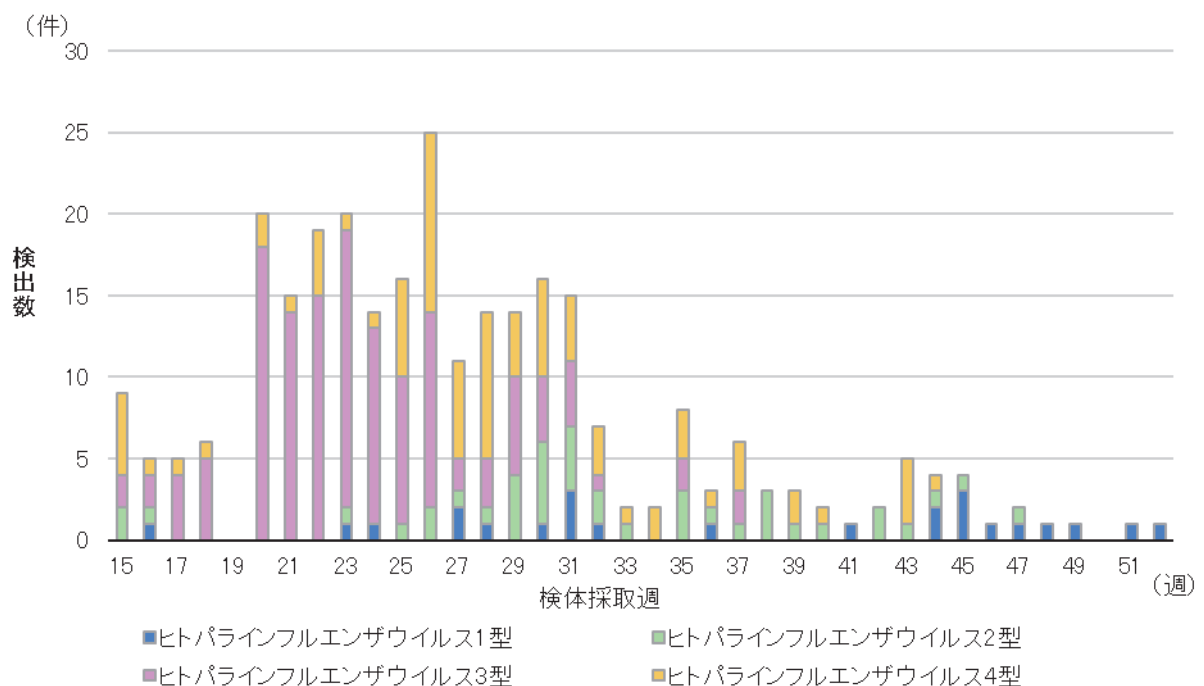


図 11. ヒトパラインフルエンザウイルス感染症患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

カ ライノ／エンテロウイルス

当センターに搬入された患者検体 2,257 件について、ライノウイルス、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、2,257 件中 654 件からライノ／エンテロウイルスを検出した。そのうち、ライノウイルスが 598 件、コクサッキーウイルス A 群 2 型が 5 件、同 4 型が 33 件、同 5 型が 3 件、同 6 型が 1 件、同 9 型が 1 件、同 10 型が 1 件、同 21 型が 1 件、エコーウイルス 3 型が 2 件、エコーウイルス 7 型が 2 件、エコーウイルス 9 型が 6 件、エコーウイルス 18 型

が1件、型別不能が1件であった（重複検出を含む）。分離試験では、ライノウイルスが12株、コクサッキーウイルスA群2型が2株、同4型が25株、同6型が1株、同9型が1株、同21型が1株、エコーウイルス3型が2株、エコーウイルス9型が2株、エコーウイルス18型が1株分離された（表3、図12）。

表3. ARI 定点医療機関の検体から検出されたライノ／エンテロウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
ライノウイルス	598	12
コクサッキーウイルスA群2型	5	2
コクサッキーウイルスA群4型	33	25
コクサッキーウイルスA群5型	3	
コクサッキーウイルスA群6型	1	1
コクサッキーウイルスA群9型	1	1
コクサッキーウイルスA群10型	1	
コクサッキーウイルスA群21型	1	1
エコーウイルス3型	2	2
エコーウイルス7型	2	
エコーウイルス9型	6	2
エコーウイルス18型	11	10
エンテロウイルス（型別不能）	1	

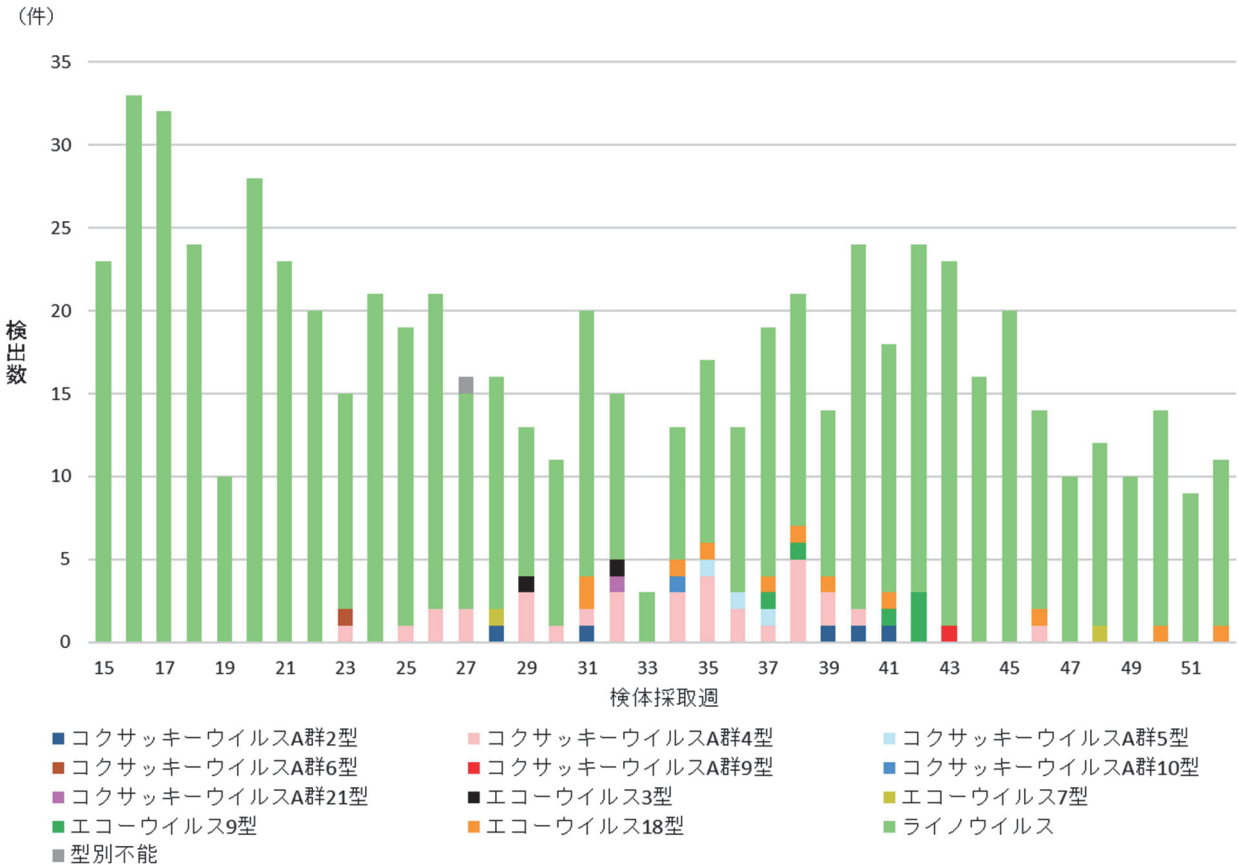


図12. ARI 定点医療機関の検体からのライノ／エンテロウイルス検出状況

キ アデノウイルス

当センターに搬入された患者検体 2,257 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、2,257 件中 106 件からアデノウイルス遺伝子（1 型：20 件、2 型：63 件、5 型：8 件、6 型：5 件、41 型：2 件、54 型：8 件）が検出された。分離試験では、アデノウイルス 1 型が 10 株、2 型が 34 株、5 型が 4 株、6 型が 2 株、54 型が 1 株分離された（表 4、図 13）。

表 4. ARI 定点医療機関の検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス1型	20	10
アデノウイルス2型	63	34
アデノウイルス5型	8	4
アデノウイルス6型	5	2
アデノウイルス41型	2	
アデノウイルス54型	8	1

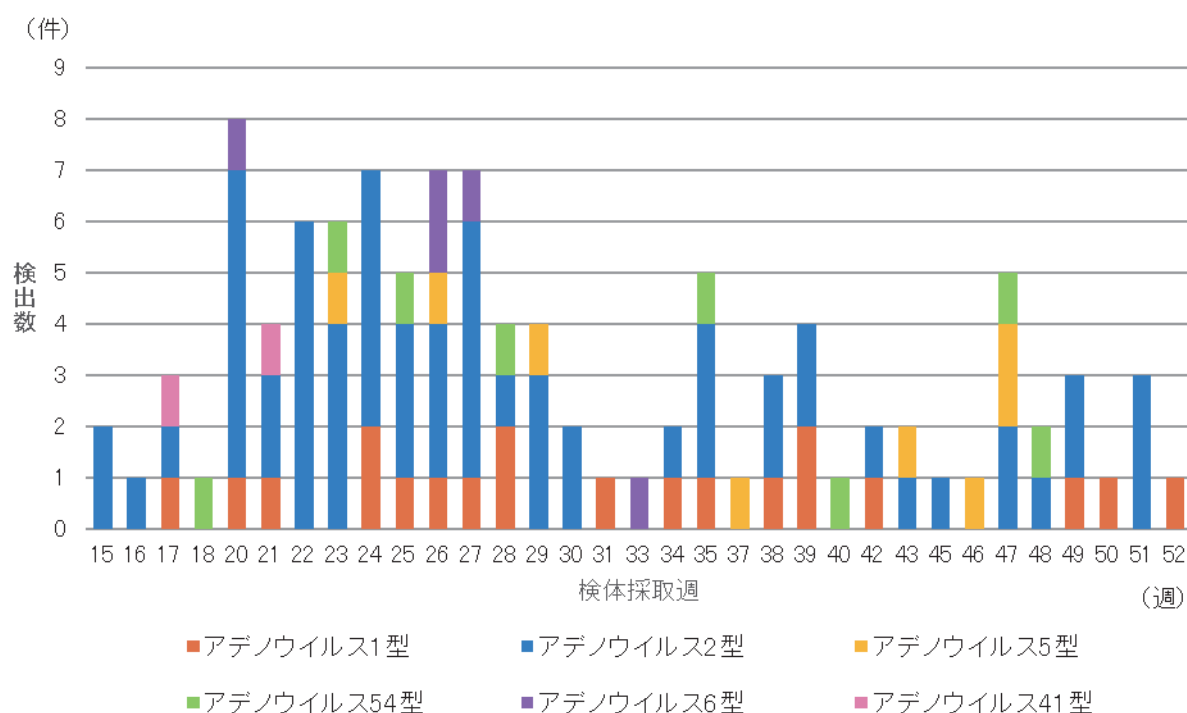


図 13. ARI 定点医療機関の検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

ク その他のウイルス

当センターに搬入された患者検体 2,257 件について、ARI サーベイランス対象ウイルス以外の感染が疑われる検体を対象に、パレコウイルス A やヒトヘルペスウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、パレコウイルス A が 3 件、ヒトパルボウイルス B19 が 2 件、ヒトヘルペス 6 型、EB ウイルスがそれぞれ 1 件検出された。分離試験では、パレコウイルス A が 3 株分離された。

（２） 小児科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は流行時期に合わせ、毎年第 36 週から翌年の第 35 週までの 1 年間を流行シーズンとしているため、2025 年第 1 週～第 35 週は 2024/2025 年シーズン、第 36 週～第 52 週は 2025/2026 年シーズンとなる。

小児科定点医療機関及び基幹定点医療機関において感染性胃腸炎と診断され、当センターに搬入された患者検体について、小児科定点の検体についてはノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス及びアストロウイルス、基幹定点の検体については A 群ロタウイルス及び C 群ロタウイルスの遺伝子検査を実施している。

小児科定点医療機関から搬入された 114 件について検査を実施した結果、65 件からウイルスが検出された。内訳は、ノロウイルスが最も多く 22 件、A 群ロタウイルスが 20 件、サポウイルスが 12 件、アデノウイルスが 7 件、アストロウイルスが 6 件であった。このうちノロウイルスと A 群ロタウイルスが重複検出されたものが 1 件、A 群ロタウイルスとアデノウイルスが重複検出されたものが 1 件あった（表 5、図 14）。ノロウイルスの遺伝子型については、GII.2 が 1 件、GII.3 が 2 件、GII.4 が 8 件、GII.17 が 11 件であった。A 群ロタウイルスの遺伝子型については、G1P[8]が 3 件、G3P[8]が 10 件、G8P[8]が 7 件であった。

基幹定点医療機関から搬入された 3 件について検査を実施した結果、3 件から A 群ロタウイルスが検出され、遺伝子型については、G3P[8]が 2 件、G8P[8]が 1 件であった。

表 5. 小児科定点の感染性胃腸炎患者から検出されたウイルス遺伝子の内訳（重複検出を含む）

検出遺伝子	検出数
ノロウイルス	22
A 群ロタウイルス	20
サポウイルス	12
アデノウイルス	7
アストロウイルス	6
計	65

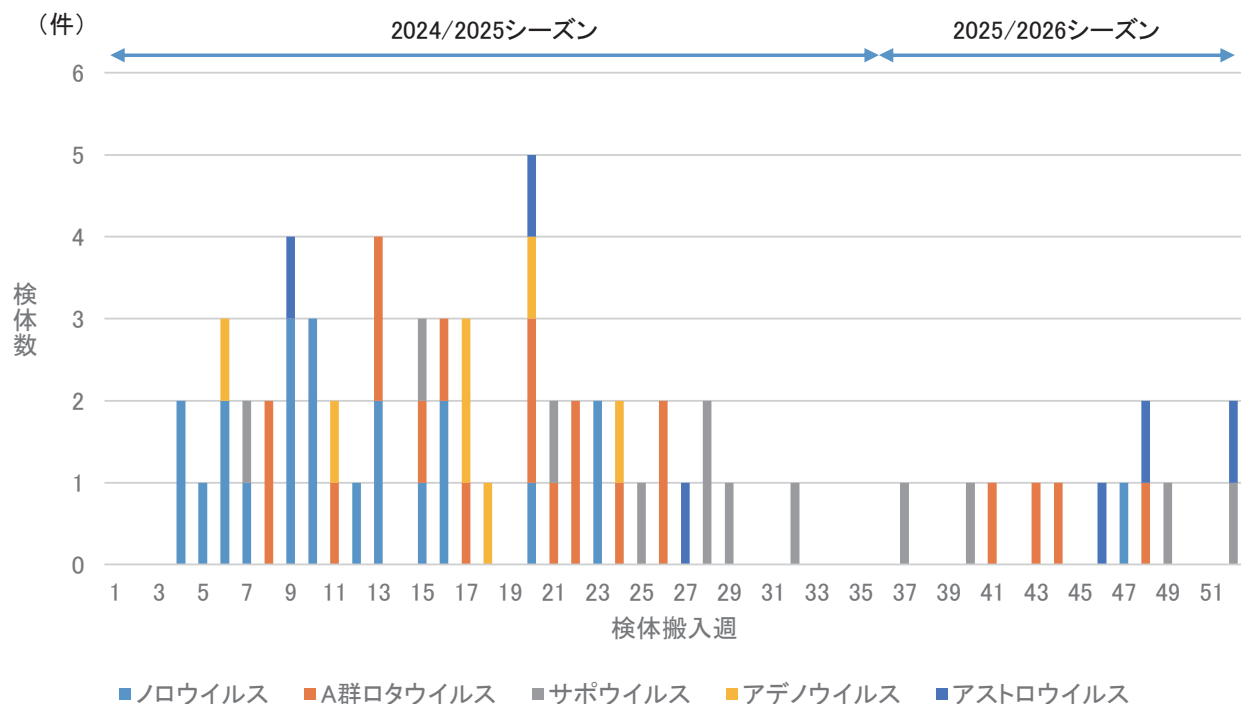


図 14. 小児科定点の感染性胃腸炎患者からのウイルス遺伝子検出状況（重複検出を含む）

イ 水痘

小児科定点医療機関で水痘と診断され当センターに搬入された患者検体 18 件について、水痘帯状疱疹ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、水痘帯状疱疹ウイルスが 12 件、麻しんウイルス A 型（ワクチン類似株）が 1 件検出された。分離試験では、ウイルスは分離されなかった（表 6、図 15）。

表 6. 水痘患者検体から検出されたウイルス遺伝子の内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
水痘帯状疱疹ウイルス	12	
麻しんウイルスA型(ワクチン類似株)	1	
陰性	5	18

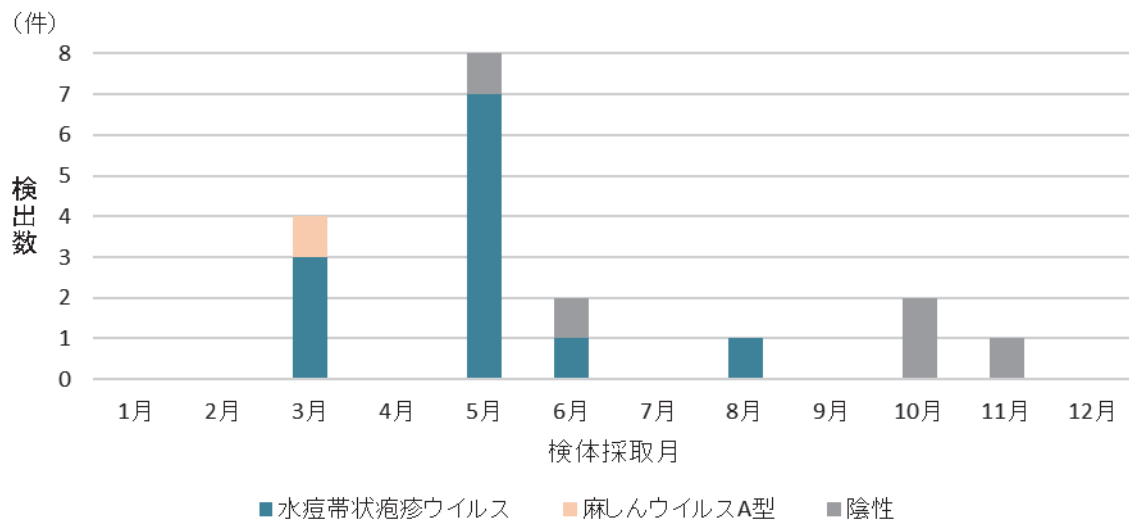


図 15. 水痘患者検体からのウイルス検出状況

ウ 手足口病

小児科定点医療機関で手足口病と診断され、当センターに搬入された患者検体 16 件について、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査において検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 1 件、エコーウイルス 18 型が 3 件、型別不能が 1 件であった。また、ライノウイルスが 3 件、RS ウイルス B 型が 1 件、パレコウイルス A が 1 件検出された。分離試験ではコクサッキーウイルス A 群 6 型が 1 株、エコーウイルス 18 型が 4 株、RS ウイルス B 型が 1 株、パレコウイルス A が 1 株分離された（表 7、図 16）。

表 7. 手足口病患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
コクサッキーウイルスA群6型	1	1
エコーウイルス18型	3	4
エンテロウイルス（型別不能）	1	
ライノウイルス	3	
RSウイルスB型	1	1
パレコウイルスA	1	1
陰性	6	9

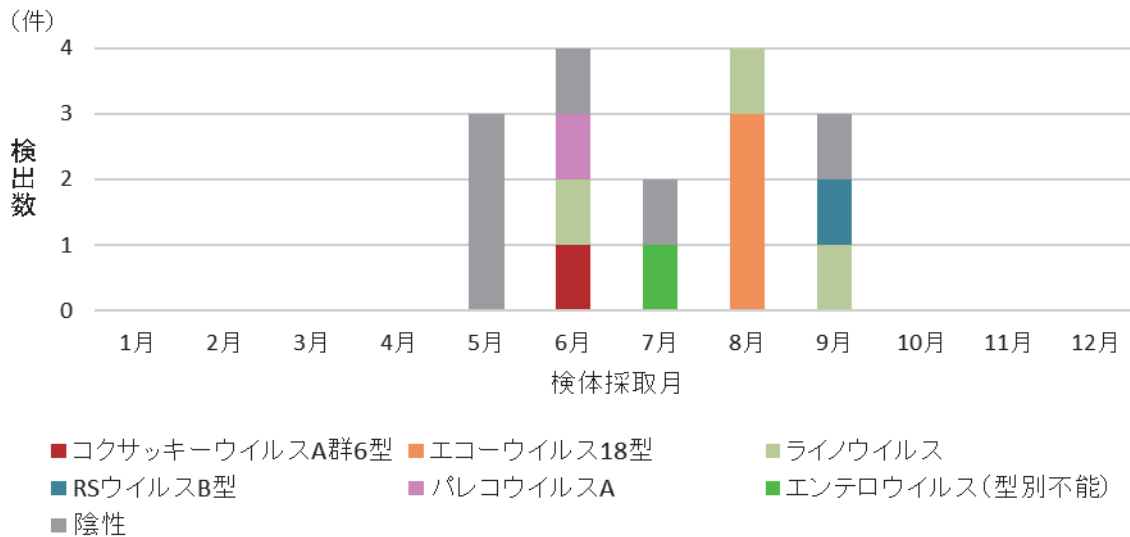


図 16. 手足口病患者検体からのウイルス検出状況

エ 伝染性紅斑

小児科定点医療機関で伝染性紅斑と診断され当センターに搬入された患者検体 24 件について遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、ヒトパルボウイルス B19 が 18 件検出された。その他のウイルスでは、エコーウイルス 7 型が 1 件、ライノウイルスが 1 件検出された（重複検出を含む）。分離試験では、エコーウイルス 7 型が 1 株、ライノウイルスが 1 株分離された（表 8、図 17）。

表 8. 伝染性紅斑の患者から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトパルボウイルスB19	18	
エコーウイルス7型	1	1
ライノウイルス	1	1
陰性	1	22

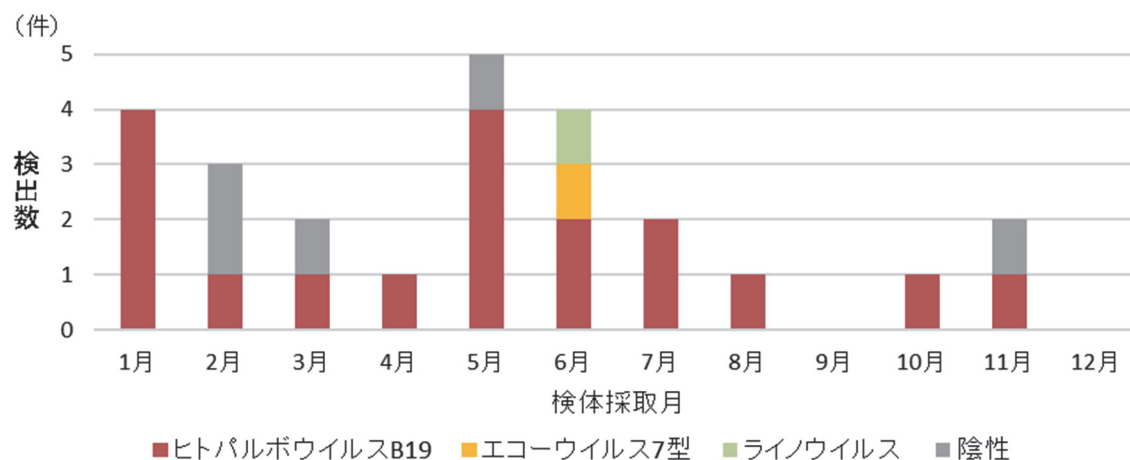


図 17. 伝染性紅斑患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

オ 突発性発しん

小児科定点医療機関で突発性発しんと診断され、当センターに搬入された患者検体 21 件についてヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 12 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型が 1 件検出された。また、RS ウイルス A 型が 1 件、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 1 件、エコーウイルス 18 型が 1 件、パレコウイルス A が 1 件検出された。分離試験では、エコーウイルス 18 型が 1 株、パレコウイルス A が 1 株分離された（表 9、図 18）。

表 9. 突発性発しんの患者から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトヘルペスウイルス 6 型	12	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	1	
RS ウイルス A 型	1	
コクサッキーウイルス A 群 6 型	1	
エコーウイルス 18 型	1	1
パレコウイルス A	1	1
陰性	4	19

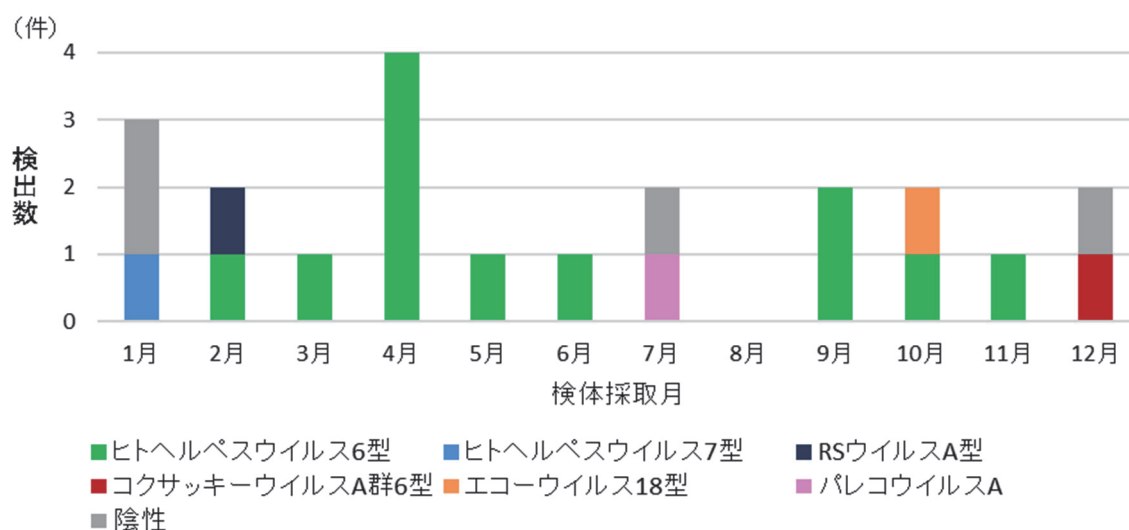


図 18. 突発性発しん患者検体からのウイルス検出状況

カ 流行性耳下腺炎

小児科定点医療機関で流行性耳下腺炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 7 件についてムンプスウイルス、EB ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、すべての検体でウイルスは検出されなかった。

キ 不明発しん症

小児科定点医療機関で不明発しん症と診断され、当センターに搬入された患者検体 95 件について

麻しんウイルス、風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19、エンテロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、58 件のウイルス遺伝子が検出された。最も多く検出されたのはヒトパルボウイルス B19 が 17 件で、次いでライノウイルスの 16 件、エンテロウイルス 14 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 13 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型が 2 件、加えてアデノウイルス 2 型、アデノウイルス 54 型、麻しんウイルス A 型（ワクチン類似株）、水痘帯状疱疹ウイルス、パレコウイルス A と新型コロナウイルスがそれぞれ 1 件検出された（重複検出を含む）。エンテロウイルスの内訳は、エコーウイルス 18 型が 12 件と、エコーウイルス 9 型 1 件、コクサッキーウイルス A 群 9 型 1 件であった。

分離試験では、エコーウイルス 18 型が 12 株、加えてコクサッキーウイルス A 群 9 型、アデノウイルス 2 型、アデノウイルス 54 型、パレコウイルス A、新型コロナウイルスがそれぞれ 1 株分離された（表 10、図 19）。

表 10. 不明発しん症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトパルボウイルスB19	17	
ライノウイルス	16	
エコーウイルス18型	12	12
エコーウイルス9型	1	
コクサッキーウイルスA群9型	1	1
ヒトヘルペスウイルス6型	13	
ヒトヘルペスウイルス7型	2	
アデノウイルス2型	1	1
アデノウイルス54型	1	1
麻しんウイルスA型（ワクチン類似株）	1	
水痘帯状疱疹ウイルス	1	
パレコウイルスA	1	1
新型コロナウイルス	1	1
陰性	37	37

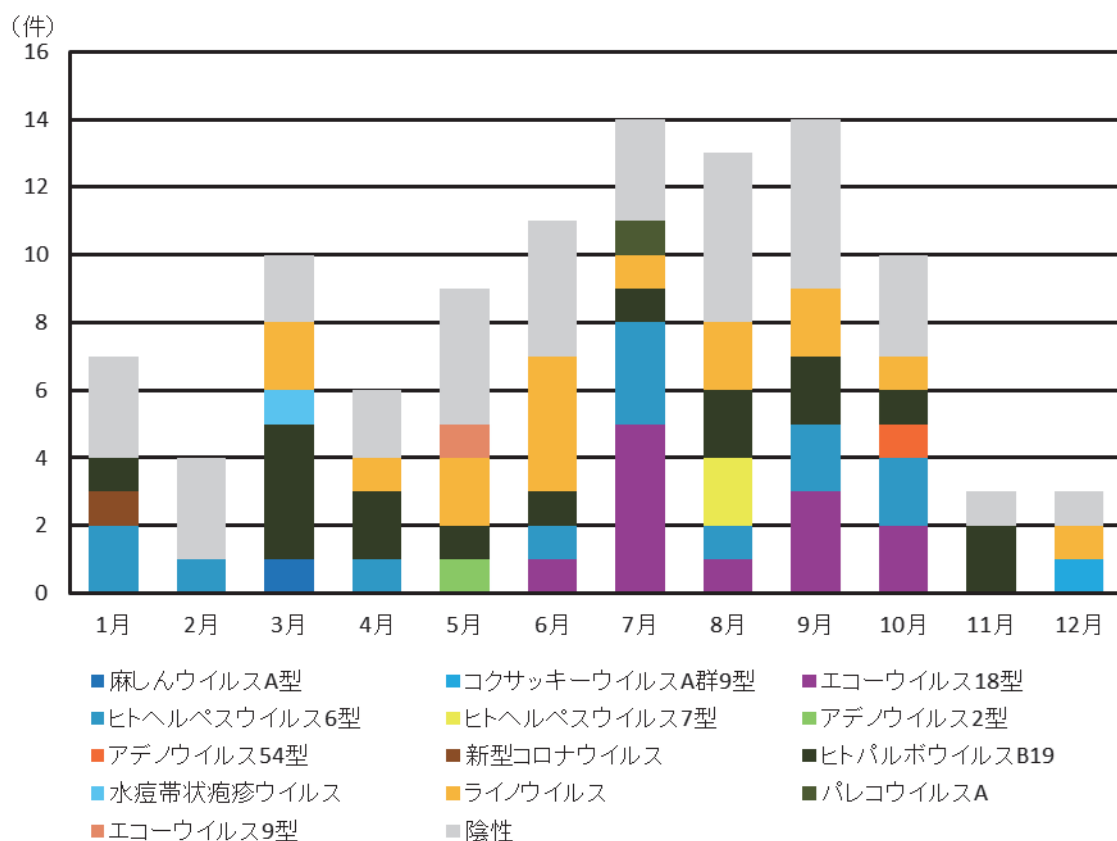


図 19. 不明発しん症患者検体からの月別ウイルス検出状況（重複検出を含む）

ク 川崎病

小児科定点医療機関で川崎病と診断され、当センターに搬入された患者検体 1 件についてアデノウイルス、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、ウイルスは検出されなかった。

ケ 無菌性髄膜炎

基幹定点医療機関で無菌性髄膜炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 6 件についてエンテロウイルス、パレコウイルス A 型、ムンプスウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、ムンプスウイルス（ワクチン類似株）遺伝子が 1 件、水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子が 1 件検出された。分離試験では、すべての検体でウイルスは検出されなかった。

コ RS ウイルス感染症（第 14 週まで）

小児科定点医療機関で第 1 週から第 14 週の間で RS ウイルス感染症と診断され、当センターに搬入された患者検体 4 件について RS ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。4 件中 3 件から RS ウイルス遺伝子（A 型 1 件、B 型 2 件）が検出された。また、ヒトメタニューモウイルスが 1 件検出された。分離試験では、すべての検体でウイルスは検出されなかった（表 11、図 20）。

表 11. RS ウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
RSウイルスA型	1	
RSウイルスB型	2	
ヒトメタニューモウイルス	1	
陰性		4

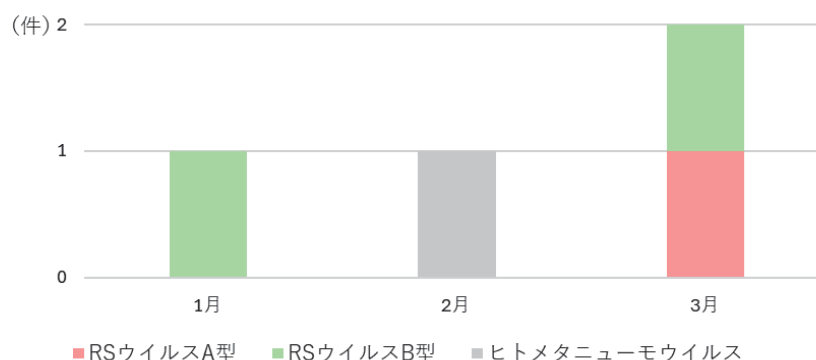


図 20. RS ウイルス感染症患者検体からのウイルス検出状況

サ ヘルパンギーナ（第 14 週まで）

小児科定点医療機関で第 1 週から第 14 週の間でヘルパンギーナと診断され、当センターに搬入された患者検体 1 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査及び分離試験でウイルスは検出されなかった（表 12）。

表 12. ヘルパンギーナ患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
エンテロウイルス		
陰性	1	1

シ 咽頭結膜熱（第 14 週まで）

小児科定点医療機関で咽頭結膜熱と診断され、当センターに搬入された患者検体 1 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、アデノウイルス 5 型の遺伝子が検出された。分離試験では、アデノウイルス 5 型が分離された（表 13）。

表 13. 咽頭結膜熱患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
アデノウイルス5型	1	1
陰性		

（３）眼科病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 流行性角結膜炎

定点医療機関で流行性角結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 74 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。74 件中 49 件からアデノウイルス遺伝子（8 型：4 件、54 型：21 型、56 型：1 件、64 型：2 型、D 種：21 件）が、エコーウイルス 18 型が 1 件検出された（表 14、図 21）。分離試験では、アデノウイルス 8 型が 4 株、54 型：13 型、56 型：1 件、64 型：2 型、D 種が 15 株のほか、エコーウイルス 18 型が 1 株分離された。

表 14. 流行性角結膜炎患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス8型	4	4
アデノウイルス54型	21	13
アデノウイルス56型	1	1
アデノウイルス64型	2	2
アデノウイルスD種	21	15
エコーウイルス18型	1	1
陰性	25	39

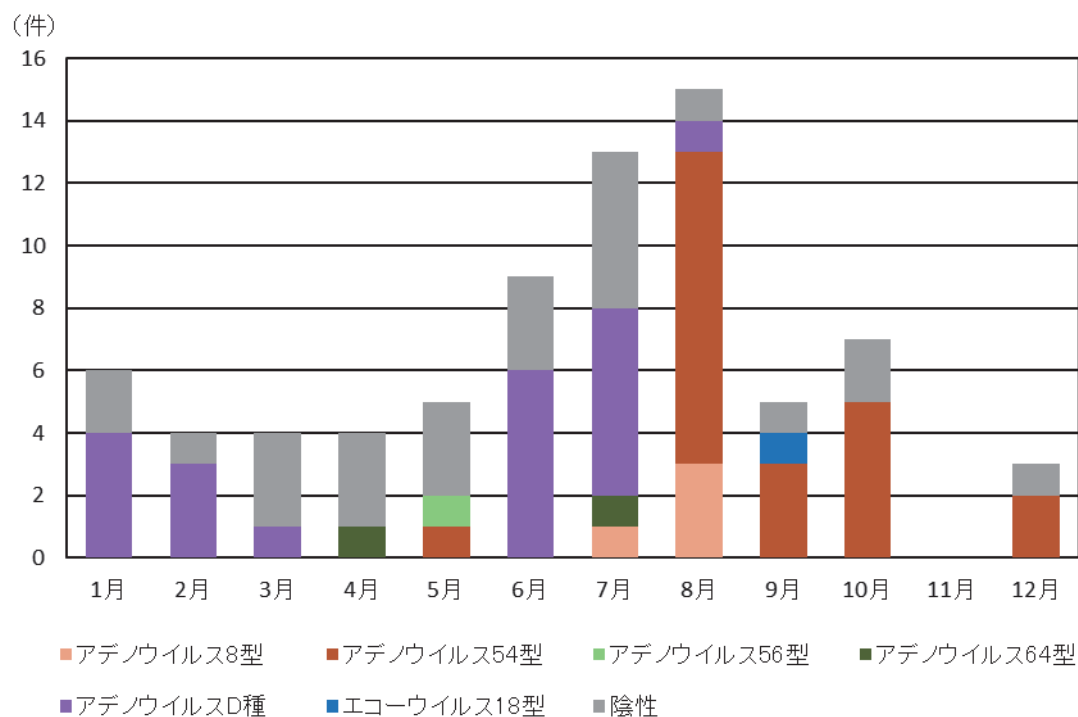


図 21. 流行性角結膜炎患者検体からのウイルス検出状況

（４）性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 性器ヘルペスウイルス感染症

STI 病原体定点医療機関から 2 件（主として性器ヘルペスウイルス感染症を疑う患者の水疱内容物）が搬入された。このうち 1 件から単純ヘルペスウイルス 2 型の遺伝子が検出された。

イ 尖圭コンジローマ

STI 病原体定点医療機関から 4 件（尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料）が搬入され、このうち 2 件からヒトパピローマウイルス遺伝子が検出された。いずれも子宮頸がん等のリスク評価分類で Low リスクに分類された [11 型：2 件]。

（５）積極的疫学調査による搬入検体

ア 二類感染症

① 中東呼吸器症候群（MERS（Middle East respiratory syndrome）コロナウイルス）

都内医療機関で MERS が疑われ、当センターに搬入された患者検体はなかった。

② 鳥インフルエンザ（A/H5N1 亜型、A/H7N9 亜型）

都内医療機関で鳥インフルエンザが疑われ、当センターに搬入された患者検体はなかった。

イ 四類感染症

① A 型肝炎

医療機関で A 型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 16 件について遺伝子検査を実施した。13 件から A 型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は IA 型が 8 件、IB 型が 3 件、IIIA 型が 2 件であった。

② E 型肝炎

医療機関で E 型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 113 件について遺伝子検査を実施した。62 件から E 型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は 3 型が 59 件、4 型が 3 件であった。

③ 蚊媒介感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎）

都内の医療機関でデング熱と診断、またはデング熱等の蚊媒介感染症疑いと診断され、当センターに搬入された患者 52 例 65 検体について検査を実施した。その結果、海外感染疑い例のうち 35 例からデングウイルス遺伝子（1 型 13 例、2 型 14 例、3 型 6 例、4 型 2 例）が検出され、1 例からチクングニアウイルス遺伝子が検出された。なお、ジカウイルス遺伝子およびウエストナイルウイルス遺伝子は検出されなかった。また、国内感染を疑う検体は搬入されなかった。

④ リケッチア等関連疾患（Q 熱、つつが虫病、日本紅斑熱、発しんチフス、ライム病）

都内の医療機関でリケッチア等関連疾患と診断され当センターに搬入された患者検体 28 例（つつが虫病 9 例 15 検体、日本紅斑熱 4 例 4 検体、つつが虫・日本紅斑熱疑い 8 例 8 検体、日本紅斑熱・ライム病・回帰熱疑い 1 例 1 検体、ライム病疑い 3 例 4 検体、Q 熱 2 例 2 検体、ライム病・回帰熱疑い 1 例 1 検体）

について検査を実施した。つつが虫病患者9例について遺伝子検査を行ったところ5例から*Orientia tsutsugamushi*の遺伝子が検出された（Kawasaki株系統遺伝子1例、Kuroki株系統3例、Karp株系統1例）。また、日本紅斑熱疑いの患者4例について遺伝子検査を行った結果*Rickettsia japonica*遺伝子は検出されなかった。つつが虫病・日本紅斑熱疑い8例について、リケッチア属共通PCR及びつつが虫病遺伝子検査を実施したが、*Rickettsia japonica*遺伝子及び*Orientia tsutsugamushi*の遺伝子は検出されなかった。その他、ライム病を疑う3例について抗体検査を実施したところ、1例でライム病ボレリアに対するIgG抗体の上昇が認められたが、血清中からボレリア属遺伝子は検出されなかった。また、Q熱2例について、*Coxiella burnetii* PCRを実施したが、*Coxiella burnetii*遺伝子は検出されなかった。ライム病・回帰熱疑い1例について抗体検査を実施したが、いずれも陰性であった。

⑤ エムボックス

都内の医療機関でエムボックス疑いと診断され、当センターに搬入された患者32例56検体についてエムボックスウイルス及び水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を行った。その結果、エムボックスウイルス遺伝子が17例から検出され、水痘帯状疱疹ウイルスは検出されなかった。

ウ 五類感染症（全数把握疾患）

① 急性脳炎

都内の医療機関で急性脳炎と診断され、当センターに搬入された患者検体はなかった。

② 水痘（入院を要するもの）

都内の医療機関で水痘と診断され入院に至った事例で、当センターに搬入された患者検体9例10検体について水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を行ったところ、水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子が9例から検出された。

③ 急性弛緩性麻痺

都内の医療機関で急性弛緩性麻痺と診断され、当センターに搬入された患者2例8検体（咽頭ぬぐい検体、糞便等）についてエンテロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ライノウイルス遺伝子が1例から検出された。

④ 麻しん及び風しん

都内医療機関で麻しん、あるいは風しん（疑い含む）と診断され、当センターに搬入された患者311例336検体について麻しんウイルス及び風しんウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、麻しんウイルス遺伝子が39例（B3型：29例、D8型：5例、A型ワクチン類似株：4例、型別不能：1例）、風しんウイルス遺伝子は1例（1a型ワクチン類似株：1例）検出された。

また、麻しん及び風しんウイルスが陰性となった検体240件について、病原体レファレンス事業によりヒトパルボウイルスB19等の遺伝子検査を実施した。その結果、ヒトパルボウイルスB19遺伝子が36件、ヒトヘルペスウイルス6型遺伝子が15件、ヒトヘルペスウイルス7型遺伝子が4件検出された。

2 細菌検査結果

(1) 急性呼吸器感染症 (ARI) 定点医療機関からの搬入検体

ア 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

急性呼吸器感染症定点医療機関から咽頭スワブ 101 検体、鼻腔スワブ 45 検体、計 146 検体が搬入された。A 群溶血性レンサ球菌が 40 株分離され、T 血清型別試験を実施した結果、4 型が 14 株、3 型が 11 株、11 型、25 型および B3264 型が各 2 株ずつ、12 型が 1 株であり、型別不能が 8 株であった。また、肺炎マイコプラズマ遺伝子が 14 検体から検出された。百日咳菌遺伝子は 6 検体から検出され、そのうちの 1 検体から百日咳菌が分離され、マクロライド耐性変異を保有していた。また、1 検体から G 群溶血性レンサ球菌が分離された。1 検体から 2 種類の病原体が検出された検体は 2 検体であった。

(2) 二類感染症の病原体検索

ア ジフテリア

令和 7 年中にジフテリア検体の搬入はなかった。

(3) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

患者由来株 13 株（13 事例）が搬入され、血清型別試験を実施した結果、*Legionella pneumophila* 1 群が 9 株、3 群が 1 株、5 群が 1 株、6 群が 2 株であった。また、患者喀痰 1 件（1 事例）が搬入され、分離培養と遺伝子検査を実施した結果、培養陽性、遺伝子陽性であり、分離菌株の血清型は 1 群であった。

(4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

患者由来株 100 株（96 事例）が搬入された。菌株の内訳は、*Klebsiella pneumoniae* が最も多く 27 株、次いで *Escherichia coli* が 25 株、*Enterobacter cloacae* が 18 株、*Klebsiella aerogenes* が 16 株であった。その他、*Serratia marcescens*、*Citrobacter freundii* など 14 株が搬入された。

PCR 法による β -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、NDM 遺伝子保有株が 9 株であった。また、IMP 遺伝子保有株が 29 株、KPC 遺伝子保有株が 4 株、OXA-48 遺伝子保有株が 3 株、GES 遺伝子保有株が 2 株、CTX-M-1 group 遺伝子保有株が 26 株、CTX-M-2 group 遺伝子保有株が 6 株、CTX-M-9 group 遺伝子保有株が 12 株、EBC 遺伝子保有株が 7 株、CIT 遺伝子保有株が 4 株、DHA 遺伝子保有株が 6 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 20 株であった。

イ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

患者由来株 137 株（130 事例）が搬入され、Lancefield 分類による群別の結果、A 群が 70 株、B 群が 20 株、C 群が 2 株、F 群が 2 株、G 群が 42 株であり、1 株は死滅しており検査不能であった。

A 群のうち 69 株が *Streptococcus pyogenes* であり、1 株は *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* (SDSE) であった。B 群レンサ球菌 20 株はすべて *Streptococcus agalactiae* であり、C 群の 1 株及び G 群は SDSE、F 群レンサ球菌は *Streptococcus constellatus*、C 群の残り 1 株は *Streptococcus* sp. であった。（表 15）。*S. pyogenes* と *S. agalactiae* について型別用免疫血清を用いた血清型別を実施した。*S. pyogenes* では T 血清型別の結果、B3264 型が 11 株で最も多く、次いで 1 型が 7 株、4 型が 5 株、14/49 型が 4 株、3 型、11 型、22 型がそれぞれ 3 株ずつ、12 型が 2 株、25 型及び 28 型がそれぞれ 1 株ずつであり、型別不能が 29 株であった（表

16)。*S. agalactiae* 20 株の血清型は、V型が 7 株と最も多く、次いで Ia 型と Ib 型が各 3 株、II 型が 2 株、III 型、IV 型及び VII 型が各 1 株ずつであり、型別不能が 2 株であった (表 17)。

S. pyogenes 及び SDSE については、M タンパク又は M 様タンパクをコードする遺伝子により型別を決定する *emm* 型別を実施した。その結果、*S. pyogenes* では、89 型が 16 株と最も多く、次いで 49 型が 14 株、3 型が 9 株、81 型が 8 株などであり、昨年最も多かった 1 型は、7 株であった (表 16)。SDSE 44 株では、stG6792 型が 10 株で最も多く、次いで stG485 型が 8 株、stG245 型が 6 株、stG4222 型が 4 株などであった (表 18)。

また、令和 5 年末より M1_{UK} 株の増加がみられたことから、令和 6 年 1 月に厚生労働省により M1_{UK} 株についての解析を実施し報告するよう感染症対策課長通知が各都道府県に出された。これを受け、*emm1* 型株について M1_{UK} の検査を実施した。その結果、*emm1* 型株 7 株中 5 株が M1_{UK} 株であった。

表 15. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来株の群別及び菌種名

菌種名	Lancefield 分類 群別					計
	A	B	C	F	G	
<i>S. pyogenes</i>	69					69
<i>S. agalactiae</i>		20				20
<i>S. dysgalactiae</i> ssp. <i>equisimilis</i>	1		1		42	44
<i>S. constellatus</i>				2		2
<i>Streptococcus</i> sp.			1			1
計	70	20	2	2	42	136

表 16. *Streptococcus pyogenes* の T 血清型及び *emm* 型

<i>emm</i> 型	T 型											計
	1	3	4	11	12	22	25	28	14/49	B3264	UT	
1	7											7
3		3									6	9
4			5									5
11				3								3
22											1	1
28								1				1
44											2	2
49									2		12	14
75							1					1
76					1							1
81						3			2		3	8
89										11	5	16
113					1							1
計	7	3	5	3	2	3	1	1	4	11	29	69

表 17. B 群レンサ球菌 (*Streptococcus agalactiae*) の血清型

血清型								計
Ia	Ib	II	III	IV	V	VII	型別不能	
3	3	2	1	1	7	1	2	20

表 18. *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* の emm 型

emm 型									計
stG245	stG485	stG652	stG6792	stG4222	stG840	stG10	stG4974	stG653	その他*
6	8	2	10	4	3	2	2	2	5

*その他 (各 1 株) : stG6, stC74a, stC6979, stG480, stG166b

ウ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

患者由来のインフルエンザ菌 67 株 (65 事例) が搬入され、免疫血清及び PCR 法による血清型別試験を実施した結果、e 型が 2 株、f 型が 3 株、無莢膜型が 59 株、菌死滅による検査不能が 3 株であった。

エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

搬入された本疾患患者由来株は *Acinetobacter baumannii* 3 株 (3 事例) であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結果、OXA-51-like β -ラクタマーゼ遺伝子保有株が 3 株、OXA-23-like β -ラクタマーゼ遺伝子保有株が 1 株、プロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (ISAba1) 保有株が 2 株であった。

オ 侵襲性肺炎球菌感染症

患者由来の肺炎球菌 118 株 (116 事例) が搬入され、莢膜膨化法による血清型別試験を実施した結果は表 19 の通りであった。また、菌死滅による検査不能が 3 株であった。

表 19. 肺炎球菌の血清型別結果

血清型	株数	血清型	株数	血清型	株数
3	27	14	3	35F	2
22F	15	15A	3	7C	2
38	12	15B	3	8	1
24B	9	15C	3	13	1
10A	6	23A	3	16F	1
11A	5	23B	3	19F	1
19A	5	34	2	6B	1
24F	4	35B	2	6C	1

カ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来 10 株（10 事例）であり、*Enterococcus faecium* が 8 株、*Enterococcus faecalis* が 2 株であった。PCR 法によるバンコマイシン耐性遺伝子の検出を実施した結果、全て *vanA* 遺伝子を保有していた。

VRE 感染症にともなう保菌者由来 *E. faecium* 12 株が搬入され、PCR 法によるバンコマイシン耐性遺伝子の検出を実施した結果、全て *vanA* 遺伝子を保有していた。

キ 侵襲性髄膜炎菌感染症

搬入された患者由来の髄膜炎菌は 14 株(13 事例)であり、PCR 法による血清群別を実施した結果、Y 群 7 株、B 群が 4 株、群別不能が 1 株、菌死滅による検査不能が 2 株となった。

侵襲性髄膜炎菌感染症にともなう接触者検査を 24 件実施し、遺伝子検査陽性 17 件、培養検査陽性 12 件であった。

ク 百日咳

搬入された患者由来の百日咳菌は 58 株（58 事例）であり、LAMP 法による百日咳菌同定検査及びマクロライド耐性変異検査を実施した結果、全株が百日咳菌と同定され、マクロライド耐性変異保有株が 45 株、マクロライド耐性変異非保有株が 12 株であった。また、1 株が菌死滅のため検査不能であった。

（５）五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

小児科定点医療機関から 61 件の咽頭スワブが搬入され、A 群溶血性レンサ球菌が 57 株分離された。T 血清型別試験を実施した結果、4 型が 27 株と最も多く、次いで 3 型：10 株、B3264 型：7 株、1 型：2 株、11 型及び 28 型が各 1 株ずつであり、型別不能が 9 株であった。

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 3 件について腸管系の細菌検査を実施した結果、全て陰性であった。

ウ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

基幹定点医療機関の MRSA 感染症患者由来検体が 30 件搬入され、MRSA 28 株、MSSA 1 株が分離された。コアグラーゼ型別試験を実施した結果、MRSA のコアグラーゼ型は、I 型：1 株、II 型：2 株、III 型：13 株、VII 型：12 株であり、型別不能は 1 株であった。また、MSSA 1 株のコアグラーゼ型は、I 型であった。

エ マイコプラズマ肺炎

基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎患者検体の搬入はなかった。

（６）性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体

2025 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より 78 検体が搬入された。搬入検体の内訳は、男性：尿 71 例、女性：スワブ 3 例、性別不明：尿 4 例であった（表 20、21）。それらについて、クラミジア・トラコマチス、淋菌等の検査を実施した。

ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌

尿およびスワブ 77 検体についてクラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査を実施した。性別および年齢階級別の病原体検査成績を表 17 に示した。クラミジア・トラコマチスについては、男性 17 例（23.9%）、女性 1 例（50.0%）が陽性を示した。淋菌は男性 17 例（23.9%）が陽性を示し、女性では陽性例は見られなかった。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出された例は見られなかった。性別不明を含めて淋菌遺伝子が検出された 18 例のうち 8 例（44.4%）から淋菌が分離された。

性別および臨床診断別の病原体検査結果を表 18 に示した。男性では、性器クラミジア感染症と診断された 65 例中 16 例（24.6%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、15 例（23.1%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 6 例（40.0%）から淋菌が分離された。また、淋菌感染症と診断された 6 例中 1 例（16.7%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、2 例（33.3%）から淋菌遺伝子が検出され、淋菌遺伝子が検出された 2 例中 1 例（50.0%）から淋菌が分離された。女性では、性器クラミジア感染症と診断された 2 例中 1 例（50.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

イ 膣トリコモナス

膣トリコモナスが疑われた女性のスワブ 1 例について遺伝子検査を行った結果、膣トリコモナス遺伝子が検出された。

表 20. 性別および年齢階級別の病原体検査結果

性別	年齢階級	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌
男性	10 歳代	1				
	20 歳代	22	8	3		1
	30 歳代	22	6	9		5
	40 歳代	17	1	4		1
	50 歳代	5				
	60 歳代	2	1	1		
	70 歳代	1	1			
	80 歳代	1				
	計	71	17	17	0	7
女性	10 歳代	1			1	
	20 歳代	2	1			
	計	3	1	0	1	0
不明	30 歳代	1	1			
	50 歳代	2		1		1
	70 歳代	1				
	計	4	1	1	0	1
合計		78	19	18	1	8

表 21. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

	臨床診断 (疑い例含む)	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌
男性	性器クラミジア感染症	65	16	15		6
	淋菌感染症	6	1	2		1
	計	71	17	17	0	7
女性	性器クラミジア感染症	2	1			
	膣トリコモナス症	1			1	
	計	3	1	0	1	0
不明	性器クラミジア感染症	4	1	1		1
	淋菌感染症	0				
	計	4	1	1	0	1
合計		78	19	18	1	8

